

#04_体をつかって奉仕してこそ！～望海のフェラ＆寧音の耳舐めご奉仕～

★…寧音

◆…望海

★「あはは…次の性処理は望海さんが…なんて言ってたけど…」

◆「こんなに早くおちんちんが回復するなんて、予想外です」

★「久しぶりにエッチなことをしたから、興奮しちゃったのかなあ？
でも、そういう男らしいところも、大好き！」

◆「底なしの性欲…ということですね」

★「そしたら…もう1回、寧音がおちんちん気持ちよくしてあげよーかなあー」

◆「ダメですよ寧音さん。次は私の番です。そう約束したでしょう」

★「ぶーぶー！ でも、そうだよね。約束は守らなきゃ…」

◆「では、今回が私が…」

◆「ふう…ふう…」

★「どうしたの望海さん、そんなにおちんちんに顔を近づけて…」

◆「せっかくですから、手以外の方法で気持ちよくしてあげようかなと
思いまして。お口でご奉仕しようと思ったのです」

★「お口でって…ええつ!? ふええ!？」

◆「ふふ、見ててください」

◆「ふーっ…」

◆「手でやるのもいいですが…こっちの方がこそばゆい感じがして、
良いでしょう？」

- ★ 「なるほど…そういうやり方もあるんだね。勉強になるよ」
- ◆ 「ええ、そういうことですので。寧音さんは見ていてください」
- ◆ 「では…失礼します」
- ◆ 「んぐっ…ちゅ…ちゅりゅ…ちゅっ…んれろ…れろ…れろ…ちゅりゅ…
ちゅっ…ちゅぷ…んれろ…はあ…♡」
- ★ 「ふわあ…望海さん…本当におちんちん、舐めてる…
何これ、エッチすぎだよお…」
- ◆ 「何を言うんですか、彼女ならこれくらいできて当然です。
…ねえ？ あなたもそう思うでしょう？」
- ◆ 「ちゅ…ちゅっ…れろ…れろろ…れりゅりゅ、
んれろ…れろ…んちゅ…ちゅっちゅつ、
れろ…れりゅりゅ…んふつ…あなたのおちんちんの匂い、
とっても濃くてステキです♡」
- ◆ 「れりゅ…れろ…ふふつ、このあたりを舐められるのが好きなのですか？
それなら、れろ…れろろ～…んりゅ、れりゅれりゅ…♡」
- ★ 「おちんちんって、こんなペロペロキャンディみたいに舐めるんだ…
あなたのおちんちん…望海さんのよだれでテカテカされちゃって、
すっごくやらしいよお…」
- ◆ 「んふつ…れりゅ…れろれろ、んつふう…ちゅりゅ♡
…れろれろ♡ ふふつ…気持ちいいみたいですね。
どんどん大きくなっていますよお」
- ★ 「んんっ…それに望海さん…あんなに美味しそうに舐めて…ゴクリ」
- ★ 「よーし！ 寧音も負けないんだから！」
- ★ 「ふふつ…！ おちんちん舐められて、それだけでもとっても
気持ちよさそうだけど…でも、おちんちんと一緒にお耳を舐められたら、
もっと気持ちいいんじゃない？」
- ★ 「寧音も、あなたが最高に気持ち～状態になれるよう、
お手伝いするからね♡ …ちゅっ」

◆ 「んっ！ んつふう…れろ、れりゅ、ちゅつ、ちゅぷ、ちゅぷあ…♡
んちゅ…れろ、れろ…ちゅつ、ちゅううつ…れりゅりゅ…♡
すう～…れろ、れろ、れろろろろつ、ちゅつ！」

★ 「んちゅつ…はあ、ちゅりゅ…はあ、はあ…んつふつ♡

んん、れりゅ…れりゅ…れろろ…んりゅれろろ…♡

んじゅ、ちゅつ…！ ちゅぷあつ！ んちゅ、ちゅううつ！」

◆ 「んっ…！ 寧音さんからの刺激で、さらに固くなるなんてっ！」

★ 「本当だ！ すごいすごい！

びーんって反り立って…男の人のおちんちんって、
こんなになっちゃうんだ」

◆ 「あなたを気持ちよくさせるのが恋人としての役目ですが…
寧音さんには負けたくありませんね」

★ 「え～？ 別に良くない？ 最終的にこの人に気持ちよくなって貰えれば」

◆ 「気持ちの問題です。

私の方がおちんちんを気持ちよくしているという自信がほしいのです」

★ 「そっか、なら寧音も本気だす！ もっともっと本気だして！

耳だけであなたをガクガクにしちゃうんだから！」

◆ 「でしたら、私はここからはさらに…しっかり咥えこんで…
もっと、気持ちよくしてみせましょう」

◆ 「じゅぷぷぷ…んじゅ、じゅりゅりゅ！

んじゅ、んりゅつ、んじゅ、じゅつ、じゅぷつ、んんつ！

んふつ、じゅりゅ、じゅりゅ、じゅりゅりゅ！ んじゅぷつ！

ぷじゅつ、ちゅりゅりゅ！」

★ 「すごい…あんなにくわえこんじやって…よおし、寧音も負けないぞおつ！」

◆ 「んじゅ、じゅりゅりゅ、りゅりゅ、んじゅつ、じゅぷ、じゅぼつ、

じゅりゅりゅ、んじゅつんふつ！ んちゅ、りゅりゅ、ちゅりゅりゅ！

んじゅりゅりゅ！」

- ★ 「んふつ、ちゅ、ちゅりゅ、じゅちゅ、んあつ、じゅりゅ、
じゅずぞぞ…ふつ！ んじゅりゅ、りゅりゅ、ちゅりゅ、ぞりゅ、
じゅりゅりゅ…！」
- ◆ 「んあつ、じゅずぞぞ、じゅりゅりゅ、じゅふ、んじゅちゅう、
ふう…んりゅ、んじゅ、んあ、れろ…れれろ、んじゅりゅりゅ…
じゅふあつ！」
- ★ 「んちゅ、じゅりゅりゅ…ふあつ…ふう、れれろ、れりゅりゅ！
おちんちんもお耳も、たくさん舐められて、気持ちいい、
気持ちいいね～♡」
- ◆ 「んじゅつ…じゅぼぼ…ぞぞ…ぞぞ…んじゅ、んつ…ふう…！」
- ◆ 「あなたの匂いが…口の中にいっぱい広がって…んふつ…
私も、気持ちよくなってしまします。んふつ…んんん…ふふつ…
不思議です、自分で触ってないのに…体が昂ぶって来て…」
- ★ 「望海さん…いいなあ、いいなあ…羨ましいなあ…♡
って、ダメダメ、これは約束…約束う…！
今はあなたのお耳を気持ちよくすることだけを、考えないと…！」
- ◆ 「じゅぼ！ じゅぼ！ じゅぼっ！ じゅぼぼっ！
んふつ…んじゅちゅ、ちゅ…ちゅりゅ…じゅりゅりゅ…
ぞりゅりゅりゅ…」
- ★ 「んじゅ、じゅりゅ！ じゅつ！ ちゅつ！ ちゅうううう！
れろ…んれろ、れれろ…んふうつ…！ れれれれろ、じゅじゅれろ！」
- ◆ 「ふふう…どうですかあ…
おちんちん、たまらなくなってきたんじやないですか？」
- ★ 「んふつ…もうたまらないって顔してるね。はあ、ふふふつ！」
- ◆ 「んあつ…んふつ、んふうつ…んちゅ、じゅりゅ…じゅりゅぞろろ…！」
- ★ 「ちゅつ…じゅりゅ、ちゅつ！ ちゅううつ！ んちゅ…ちゅりゅりゅ…！」

◆ 「んふうつ…んじゅりゅりゅ…いいんですよ…

遠慮なくいつでも出して…私のお口の中にい、
あなたの濃い精子を恵んでください」

★ 「ちゅっ！ ちゅっ！ じゅりゅる！

ほらほら、望海さん…あなたの精子が欲しいみたいだよお…
正直先を越されるのは癪だけど…お願い聞いてあげて？
そして寧音にもいつか…同じようにしてね？
ちゅっ！ んじゅ！ ちゅっ！ ちゅりゅりゅ！」

◆ 「んふつ…んじゅつ！ んじゅつ！ じゅぽぽつ！

ふあつ…大きくなってきたあつ！」

★ 「ちゅっ…じゅりゅ…ちゅりゅりゅ！ 出そうなんだね？
気持ちいいお汁、出ちゃいそうなんだ！」

◆ 「ふあつ！ んじゅつ！ らひてっ…！

んじゅりゅ！ らひてくださいいっ！ んじゅじゅ！ じゅぽつ！
じゅりゅ！ じゅりゅ！」

★ 「出しちゃおう！ 出しちゃおう！

望海さんのお口の中にあつつい精子をびゅるびゅるびゅる～って！
一番気持ちのいい時に一番気持ちいい射精をしちゃおうっ！
んちゅうつ…！ れろ、れろれろっ！」

◆ 「んふつ！ んじゅつ！ じゅりゅりゅ！ んじゅつ！

じゅぽ、じゅぽ、じゅぽ！ じゅぽぽつ！ じゅぞぞぞ！」

★ 「ふう、ふう…ほら、そろそろ！ そろそろきちゃうよ！
気持ちいいのが続々上がって～～～せえ～のっ♡」

◆ 「んんつ！ きたあつ！ ふうつ！ んふつ…んんんつ♡ んぐつ、

んつんつんつ！ んふふう～！ んんつ！ んんぐつ♡
んふつ～んんつ♡ んんん～～～つ♡」

★ 「びゅつ、びゅつ！ びゅりゅりゅりゅりゅ～！ びゅりゅりゅりゅ～♡
ぴゅるぴゅる～ぴゅぴゅぴゅ～！ びゅ～♡ びゅ～♡
どびゅ～～～つ！」

★ 「いっぱい出たね♡ たくさん溜まってたんだ」

◆ 「んぐっ…んんっ…ふう♡」

★ 「望海さん、大丈夫？ ティッシュいる？」

◆ 「いえ…お構いなく。これは…こうして…」

◆ 「んぐっ…ぐっ…ぐっ…んふう…ふはあ…♡」

★ 「ふえっ！ 望海さん…精子飲んじゃったの!?!」

◆ 「ふふ、もちろん。捨てるなんて、もったいないですからね♡」

◆ 「ごちそうさまでした。あなたの精子、とっても濃厚で…美味しかったですよ」

★ 「ふわあ～…おちんちんを舐めるだけでもエッチなのに…
出されたものを飲むなんて…もっとエッチだよお…
いいなあ…寧音もやってみたいかも」

◆ 「まあ、あまり言いづらいですけど…やる機会があれば、
参考にしてみてください」

★ 「うん！ それじゃあ…早速？」

◆ 「こらこら…それは流石に厳しいでしょう…今射精したばかりなんだし」

★ 「そっかあ…それじゃあ、今度試させてね♡」

◆ 「…寧音さん、抜け駆けは駄目ですからね？」

★ 「はいはーい！ わかってまーす！」

◆ 「…大丈夫でしょうか？」